

民大いにおどろき、再般おほくの錢を集め、巫祝等をたのみて、神鎮の神事を執行ふべしと聞あひける。丘隅ゑもん是を聞いて、暗にをかしく、一日彼村にいたり、おのれは川崎宿の田中丘隅ゑもんといふ者なり。鰐大明神の祟それがし鎮まるらすべし。假令いかなる事を做とも、かならず驚き給ふべからずと云おきて、頓て彼祠を打やぶり、鰐を瓶の中より扯いだし燈明の火を以てはこら華表を薪とし、かの鰐を炙物としのこりなう喰盡し、神酒に備し酒うちのみ、其儘我家へかへりけり。是を看村民ども大いに騒ぎ、山神の祟この、ち大いに来るべしとて、只管騒ぎあへりけるが、其后何のたりもなし。後に丘隅ゑもん御とり立に成しどき、御役にて這處へ來り、這事くはしく説語れしとなり。

〔新撰字鏡〕鰐
〔魚〕鰐
〔上佐波、下奈万豆、奈豆沾反、貌似鰐〕

鰐奈万
鰐上同

〔本草和名〕鰐
〔蟲魚〕鰐
〔而大頭出崔禹、和名奈末都〕

〔倭名類聚抄十九〕鰐
〔魚〕鰐
〔崔禹錫食經云、鰐奴露反、和名奈萬豆、漢字所出未詳〕

〔箋注倭名類聚抄八〕鰐
〔魚〕鰐
〔按鰐字諸書無載、爾雅郭注云、鮀別名鰐、江東通呼鮀爲鰐、毛詩魚麗傳云、鰐鮀也、說文、鰐鮀也、鰐鰐或从匱、鮀鰐也、證類本草鰐魚條引陶云、此是鰐也、即是鮀魚、蘇敬亦云、鰐魚一名鮀魚、本草圖經云、鰐魚今江浙多有之、大首方口、背青黑、無鱗多涎、此知是魚名鰐、又名鮀、又名鰐、爾雅翼云、鰐魚偃額、兩目上陳、頭大尾小、身滑無鱗、謂之鮀魚、言其黏滑也、醫家千字文注引郭知玄云、青黃色、無鱗、大口尾薄、孫恤云、無鱗而滑、然則以偃額名鰐、以黏滑名鮀、後俗譜聲作鰐、鰐竝杜奚反、與題同、不音以脂反、可證其所從也、今本說文从弟恐誤、又按食經云、貌似鰐者、即下條訓伊之布之者、非鰐鮀也、

〔類聚名義抄十〕鰐
〔魚〕鰐
〔奴露反、或用訓、鰐ナマヅ〕